

ヒトとイヌの関係 ● 共生と互恵的關係



日時

平成31年2月24日(日)

- ▶PM1:00 受付開始
- ▶PM1:30~3:15 講演
- ▶PM3:30~4:15 優良飼い主表彰

参加
無料

会場

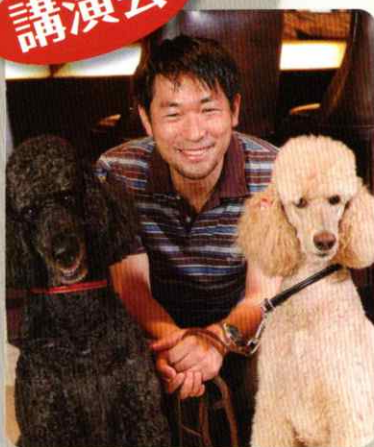
横浜市社会福祉センターホール

- ▶〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
横浜市社会福祉センター4階
- ▶TEL:045-201-2060

アクセス

JR京浜東北・根岸線
横浜市営地下鉄(ブルーライン)桜木町駅下車 徒歩3分

講演会



イヌとヒトは35,000年以上前に共生を始めました。この長い共生を経て、イヌは、ヒトの指差しや視線を読み取り、ヒトとの間に視線を用いた卓越した社会認知機能を取得しました。これらの社会認知能力は、イヌと共通祖先をもつオオカミには認められず、またヒトと最も遺伝的に近縁な動物であるチンパンジーでも認められません。そのため、ヒトとイヌは異なった進化系統樹に属するものの、その生活環を共有することで同じ能力を獲得したと考えられます。視線の利用は、相互理解を助けるだけでなく、お互いの情緒的な絆形成にも役立っています。イヌが飼い主と視線を合わせることで、飼い主のオキシトシンが増加しました。オキシトシンが上昇することで、飼い主はイヌに対して声掛けや触れ合いを示しました。この刺激がイヌのオキシトシン分泌を上昇させました。このオキシトシンを介したポジティブな絆はオオカミでは観察されませんでした。このことから、イヌはヒトとの共進化によってオキシトシン系を介してヒトと絆を形成することができるようになったと考えられます。今回、このヒトとイヌの不思議な関係を紹介します。

講師 麻布大学獣医学部動物応用科学科 菊水健史 教授

麻布大学獣医学部在動物学研究室教授。1970年鹿児島生まれ。東京大学獣医学科卒。獣医学博士。三共(現第一三共)神経科学研究所研究員、東京大学農学生命科学研究科(動物行動学研究室)助手を経て、2007年4月より麻布大学獣医学部伴侶動物学研究室准教授、2009年10月より同教授。専門は行動神経科学。齧歯類における社会コミュニケーションと生殖機能、母子間とその中枢発達に及ぼす影響に関する研究に従事。

優良飼い主表彰

横浜市獣医師会会員病院から推薦された、優良飼い主の方々に表賞状、記念品の贈呈をいたします。